捨貼り工法専用フロア

ラスティック フェイス リッチ・Jベース VC
ラスティック フェイス・Jベース VC
ナチュラルフェイスS・Jベース
Jクラレス

施工のポイント
※施工については必ず、施工説明書に従って正しく施工してください。

施工にあたっての注意

●本フロアは、**捨貼り工法専用**です。根太への直接施工はできません。

○ 使用できる下地材	・在来工法：合板12㎜厚以上 ・根太レス工法：構造用合板24㎜厚以上 （メーターモジュールは構造用合板28㎜厚以上） ・乾式二重床工法：パーティクルボード+合板12㎜厚以上
× 使用できない下地材	・根太直接 ・コンクリートころばし根太（合板捨貼り工法でも不可） ・乾式二重床工法：パーティクルボード直接 ・その他

●施工は、必ず以下に記す接着剤／釘のいずれかを使用してください。

	品　目	使用量
接着剤	【ウレタン系】 ノダフロア用接着剤：FP-B06 コニシ株式会社 ：KU-928C-X オート化学工業株式会社：オートンアドハー 8500 アイカ工業株式会社：JW-400シリーズ 【変成シリコーン系】 コニシ株式会社 ：床美人（PX280C-X）	接着剤の太さ：直径6㎜以上 【使用量の目安】 合板下地：180g/㎡ 床暖房下地：190g/㎡
釘	フロアネイル ステープル 長さ38㎜以上 長さ38㎜以上／肩幅4㎜ ⚠ フィニッシュネイルおよびブラッドネイルは絶対に使用しないでください。	長手：303㎜ピッチ以下 7本以上／6尺 短手：2本以上／1尺 ⚠ 短手実には、必ず釘を2本以上打ち込んでください。

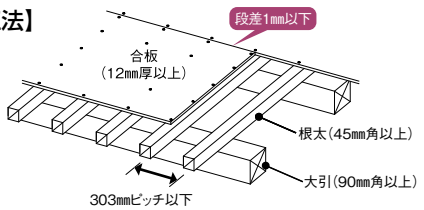
●フロアの開梱は施工直前に行ってください。開梱後12時間以上放置すると寸法安定性を損ないます。
●フロアと壁（壁がない場合は柱／間柱）は**3～5㎜程度の**すき間を設けて、巾木をフロアの上にかぶせてください。
●かぶせ量の少ないソフト巾木は使用しないでください。
●10m以上の長いスパンで施工する場合は、かぶせタイプの床見切りを設け、0.3㎜程度の目透かし施工をしてください。
●施工前に必ず仮並べをして、色柄の調和を見てください。極端に色／柄／品質上の問題がある場合、お知らせください。（**施工後における苦情／お取替えについては応じかねます**）
●雨や雪を含む水がかかる場所／湿気の多い場所には施工しないでください。
●室温が**5℃以下の場合**、施工しないでください。接着剤の硬化不良が生じます。

下地施工

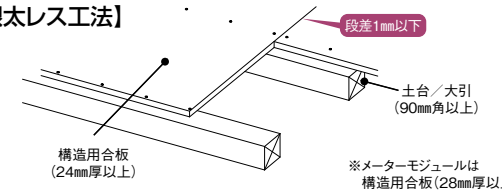
■合板下地の場合

●合板の継ぎ目部分の段差がないよう（**1㎜以下**）に調整してください。
●合板の短手継ぎ目部分は必ず根太／大引上で行い**2㎜程度**のすき間を設けてください。
●合板／根太および大引の固定にはウレタン系接着剤を塗布し、スクリューネイルまたは木ネジを**303㎜ピッチ以下**で頭が出ないように打ち込んでください。
●スクリューネイル／木ネジの長さは合板厚さの**2.5倍以上**、根太の場合は**2倍以上**としてください。

【在来工法】



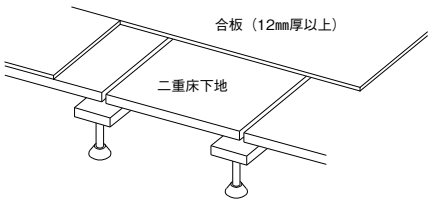
【根太レス工法】



⚠ ●大引／根太／合板は乾燥したものをご使用ください。
（大引／根太の含水率：**15%以下**、合板／パーティクルボードの含水率：**14%以下**にしてください。）
●下地材が濡れないよう充分ご配慮ください。
●ピアノ等の重量物を置く場所の場合には、根太本数を増やす等下地補強をしてください。
●根太組した面に段差がないことを確認してください。また段違いを防ぐため根太は両面プレナー掛けしたものをご使用ください。

■二重床下地の場合

●二重床下地の施工は二重床メーカーの施工説明書に必ず従ってください。
●下地材の継ぎ目部分の段差がないように調整してください。また下地材の継ぎ目部分はすき間を一定に空けてください。すき間は下地材料により幅が異なります。
●壁際は、際根太等に必ず下地材をしっかりと固定してください。
●二重床下地で施工する際は**12㎜厚以上**の合板を捨貼りしてください。



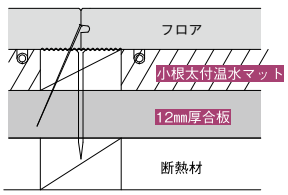
⚠ ●パーティクルボード直接には施工できません。

⚠ ●下地モルタルは**最低3週間以上**の乾燥期間をとり、含水率を**10%以下**にしてください。
【乾燥の目安】
最も乾燥しにくい部分の下地表面に、1m×1m程度のポリシートの四周を布テープ（ガムテープ）止めにより被覆密閉し、24時間以上放置後、シート下のモルタル面が黒く変色しないことを確認してください。

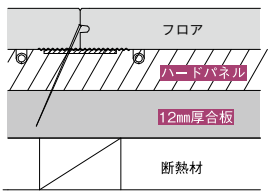
■床暖房下地の場合

●ガス会社により対応できる床暖房が異なります。詳しくはP.42をご参照ください。
●床暖房の施工は床暖房メーカーの施工説明書に必ず従ってください。
●温水マット／ハードパネルの下に下地合板（**12㎜厚以上**）が施工されていることを確認してください。
●温水マット／ハードパネル周辺部は**12㎜厚合板**を敷きこみ段差がないよう（**1㎜以下**）に仕上げてください。
●温水マットは小根太部分とフロアが必ず直交するようにしてください。

●小根太付温水マット



●ハードパネル



商品に同梱の施工説明書はノダホームページからダウンロードすることもできます。 https://www.noda-co.jp

捨貼り工法専用フロア

ラスティック フェイス リッチ・Jベース VC
ラスティック フェイス・Jベース VC
ナチュラルフェイスS・Jベース
Jクラレス

施工のポイント
※施工については必ず、施工説明書に従って正しく施工してください。

フロア施工

接着剤塗布位置／釘固定箇所については施工ポイントを参照の上、施工してください。

- ●床下地／温水マット／ハードパネル／周辺部(合板部分)の継ぎ目とフロアの継ぎ目が**100㎜以上**ずれるように割付けしてください。
- ●フロアの短手継ぎ目が小根太および釘打ち可能箇所にくるように割付けし、フロアは必ず直交するように施工してください。
- ●床下地／温水マット／ハードパネル／周辺部(合板部分)の表面ゴミ／ホコリ等をきれいに清掃してください。
- ●フロアは無理に叩き込んだり蹴り入れないでください。

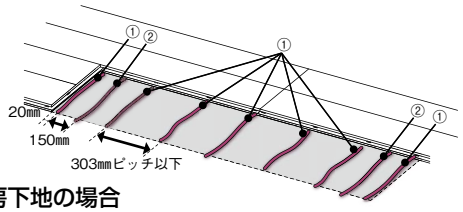
養生

施工後は、工事完了まで以下に留意して養生してください。
- ●表面にキズ／目隙／浮きがないことを確認してください。
- ●工事完了までフロア用養生シート等により壁際まですき間なく敷き、表面を充分に保護してください。
- ●必ず、床用養生テープを使用してください。
- ●凹凸のある硬質の養生ボードは使用しないでください。
- ●雨水等が養生シートにしみ込まないようにしてください。
- ●下地材やフロア等に結露等が生じないようにしてください。
- ●養生中、室内の換気は充分に行ってください。

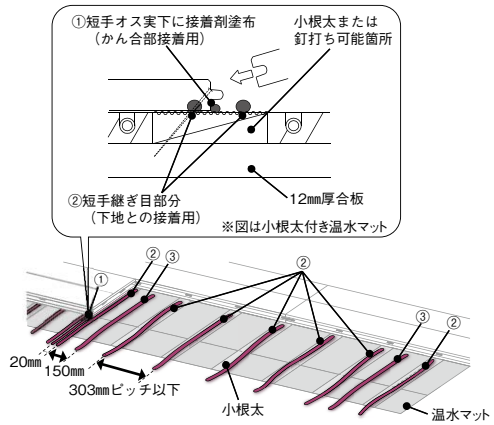
施工ポイント ①指定接着剤を指定位置に塗布

- ☑ **接着剤は、必ず指定のものをご使用ください**（『施工にあたっての注意』参照）。
- ☑ **接着剤は、直径6㎜以上を塗布してください。**
- ☑ **接着剤は、フロア幅の端から端まで塗布してください。**

■合板下地の場合
①短手から20㎜以内、および303㎜ピッチ以下で計7本塗布
②短手から150㎜以内に計2本塗布



■床暖房下地の場合
①短手オス実下に塗布
②短手から20㎜以内、および303㎜ピッチ以下で計7本塗布
③短手から150㎜以内に計2本塗布

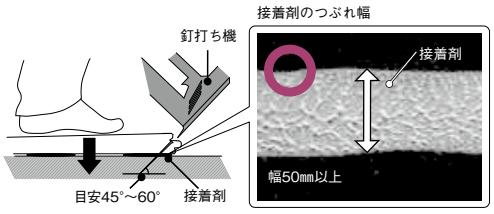


⚠ ●接着剤は小根太部分、短手150㎜部分およびその延長部分に塗布してください。

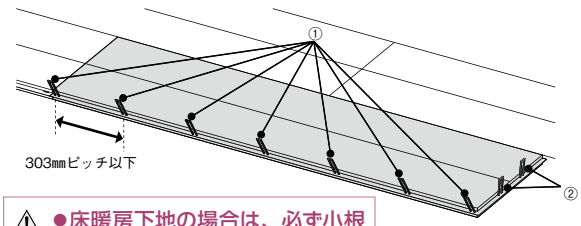
施工ポイント ②フロアネイルまたはステープルを使用

- ☑ **指定のフロアネイルまたはステープル**を使用してください（長さ**38㎜以上**）。
- ☑ **接着剤が広がるよう、足でフロアに加重を加えながら打ち込んでください。**
- ☑ **打ち込みの角度は45°～60°を目安としてください。**
- ☑ **接着剤がフロア表面に付いたり、かん合部からはみだした場合、乾いた布で速やかに拭き取ってください。硬化すると取れません。**
- ☑ **貼始め／貼じまいの壁際部のフロアは接着剤が硬化するまで、フロアと壁のすき間にクサビを打ったり、カクシ釘を打つなどしてフロアの浮きを防いでください。**

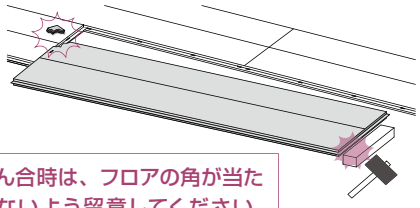
⚠ ●**フィニッシュネイルおよびブラッドネイルは、使用しないでください。**
●「千鳥貼り」または「レンガ貼り」とし、平行貼りは行わないでください。
●釘打ち機のエアー圧は、あらかじめ試し打ちを行い、釘頭の出過ぎ／沈み過ぎがないよう強さを調整してください。



①長手は303㎜ピッチ以下で7本以上打ち込む
②短手は2本以上打ち込む



⚠ ●床暖房下地の場合は、必ず小根太上に打ち込んでください。



⚠ ●かん合時は、フロアの角が当たらないよう留意してください。角が当たった状態でかん合すると角破損のおそれがあります。

⚠ ●施工中は、充分に換気を行ってください。
●接着剤塗布後、15分以内にフロアの貼付けおよび釘打ちを終えてください。

製品掲載ページ
64・74・84
86・88・90